高等学校部会活動紹介

吉田　裕亮

はじめに

高等学校部会は、その成立の経緯として「昭和 25 年に全国国立大学附属学校連盟が設立され、その後昭和 29 年に数少ない国立大学附属高等学校の部会が全国一体となって成立した」と書かれている。ここで「数少ない」というのは、当時、附属小中学校は各都道府県に設置されていたが、附属高等学校は全国といえども、限られた国立大学にのみ設置されていた。これは、戦後の学制改革の際に、東京、広島、金沢、岡崎の各高等師範学校附属の旧制中学校と、東京、奈良、広島の各女子高等師範学校附属の旧制高等女学校を主たる母体として設置されたためである。他にも旧東京音楽学校や旧東京農業教育専門学校の附属学校を母体とする附属高等学校なども幾校かあった。その後、昭和 20 年代の終わりから昭和 40 年代にかけて東京、大阪、京都の各学芸大学に、また昭和 40 年代後半には愛知教育大学に附属高等学校が設置された。さらに中等教育学校の後期課程としての高等学校なども加わり、部会の学校数は増えたが、附属小中学校の学校数には、依然として及ぶことはない。現在の高等学校部会は、以下の 21 校で構成されている。

愛知教育大学附属高等学校、愛媛大学附属高等学校、大阪教育大学附属高等学校池田校舎、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、大阪教育大学附属高等学校平野校舎、お茶の水女子大学附属高等学校、金沢大学附属高等学校、京都教育大学附属高等学校、神戸大学附属中等教育学校、筑波大学附属中学校・高等学校、筑波大学附属駒場中学校・高等学校、筑波大学附属坂戸高等学校、東京学芸大学附属高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京工業大学附属科学技術高等学校、東京大学教育学部附属中等教育学校、名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校、奈良女子大学附属中等教育学校、広島大学附属中学校・高等学校、広島大学附属福山中学校・高等学校（五十音順）。

なお、全国国立大学附属学校連盟（全附連）の高等学校部会と日本教育大学協会（教大協）の高等学校部会は等価な組織である。

高等学校部会の活動

毎年6月上旬に開催される教大協と全附連の総会日程に合わせて同日に、高等学校部会の総会ならびに定例幹事会が開かれ、前年度決算ならびに役員の報告、また当該年度の予算ならびに重要な研究活動である教育研究大会について審議される。さらに同会では併せて、各校からの現況報告と情報交換を行っている。

当部会の重要な研究活動は、例年 10 月中旬に開催される教育研究大会である。この教育研究大会の始まりは、部会の成立時にまで遡る。高等学校部会が成立した昭和 29 年から昭和 33 年までは、東京と名古屋の附属高等学校のみを中心とした研究会を年一回開催していたが、昭和 34（1959）年度からは全国すべての附属高等学校に拡大した教育研究大会を持つに至り、昭和 34（1959）年度大会を第 1 回として、今日まで毎年開催されている。昨年度の令和 5（2023）年度には、大教大天王寺において、第 64 回大会が開催された。ただ 1959 年度を第 1 回として、毎年開催であれば、2023 年度は第 65 回となる勘定であるが、実は一度だけ開催できない年度があった。それは令和 2（2020）年度に愛教大刈谷で開催予定であった第 62 回大会である。令和 2 年度は、ご承知のように、年度初めに新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言発出のため、全国のほとんどの学校で、5月末までの約 2 ケ月間の休校措置がなされた年度であった。各附属学校においても教育研究活動に大きな影響を受け、当該年度での大会開催は見送らざるを得ない状況と

なった。結局、第 62 回大会は翌年の 2021 年度に、同じく愛教大附高を幹事校として、オンラインで開催された。また続く第 63 回大会も東京学芸大附高を幹事校として、オンラインでの開催となったため、昨年度、大教大天王寺で開催された第 64 回大会は、実に4年振りの対面参集型での開催となった。また同時に、対面参集型での開催の意義と重要性を、あらためて認識させられるものでもあった。

教育研究大会と附属あり方分科会

教育研究大会では、例年、幾つかの教科に関する分科会と校務分掌に関する分科会が設定される。加えて、最近では附属あり方分科会が設定され、どの分科会においても活発な研究討議が交わされている。なお、直近2回の大会においては、以下の分科会が設定された。

第 63 回　理科分科会、保健体育科分科会、家庭科分科会、図書館分科会、
生活指導分科会、附属のあり方部会

第 64 回　国語科分科会、数学科分科会、教科横断分科会、生活指導分科会、
附属のあり方分科会

ここでは、「附属あり方分科会」について、もう少し詳しく述べておきたい。同分科会には、管理職ならびに研究主任が出席することが多く、各学校での管理運営ならびに研究関連に係る事項をテーマとした発表が中心となる。

管理運営関連では、教員働き方改革、教員ならびに管理職の人事交流など国立大学附属学校が直面している課題をテーマとした発表に、毎年、熱い研究討議が展開されている。また研究関連としては、大学と附高との協働研究や高大連携・高大接続など附属高等学校ならではのテーマも多い。さらに、国立大学附属学校の使命でもある研究開発に係るテーマも同分科会では重要な位置を占めている。特に、最近の研究開発関連では、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業に係る研究開発・教育実践研究の発表が多く見受けられる。スーパーサイエンスハイスクールとは、将来の国際的な科学技術人材の育成を図るため、文科省から科学技術、理科・数学教育に関する研究開発・カリキュラム開発を行う研究開発指定を受けた高等学校である。文科省ではスーパーサイエンスハイスクールの研究開発指定は、全国の高等学校数の 5 %を目途として指定校数が設定されている。国立大学附属高等学校内に限ってみれば、5 %の数倍をはるかに超える率でもって研究開発指定を受けている。これは国、延いては国民からの国立大学附属高等学校への期待の表れのひとつではないかと感じている。

おわりに

本年度、令和 6 年度の全附連高等学校部会・教大協高等学校部会主催の第 65 回教育研究大会はお茶大附高において対面参集型で開催予定である。多くの先生方にご参集頂き、今年度も稔り多い活発な研究討議が行われることを願っている。

（令和 5 年度高等学校部会代表・お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系 教授）